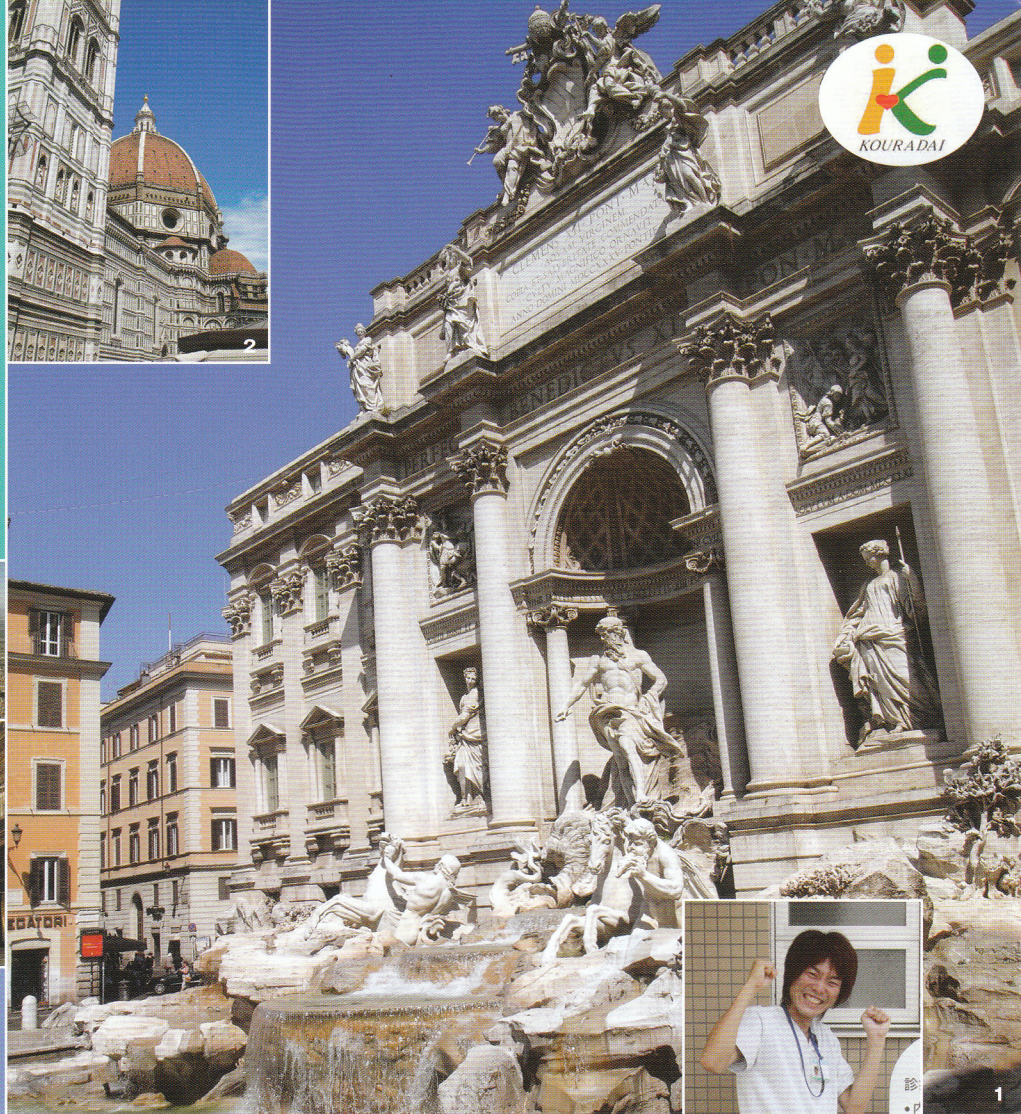
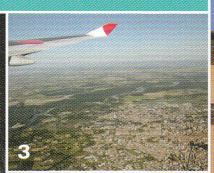
高良台リハビリテーション病院
コミュニケーション・ペーパー

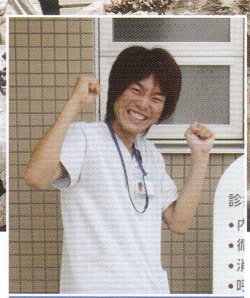
高良台からの風

Koradai Rehabilitation Hospital
Communication Paper
Koradai Wind Vol.21 January, 2010





1. ご存知トレビの泉
2. 大聖堂ドォーモ
3. ミラノの町並みが見えた!
4. ガレリア
5. 青の洞窟



新婚ホヤホヤの長野剛さん

フォト・エッセイ●

歴史を実感! 新婚旅行で訪ねたイタリア

作業療法士
長野(ながの)　剛(つよし)さん

「初めての海外旅行、そのうえ新婚旅行!思い出に残る所に行きたい!」とはワイフになってくれた美幸の弁、実は私も海外といえばグアム島にいっただけ…。

「ここは奮発しようか?」「ウン!」(にっこり)ということで旅先に選んだのは歴史の国『イタリア』です。

「皆さんは海外旅行で何をしたいですか?」

私は、「うまい物を食べたい! 美しい景色を見たい! 映画で見たことがある街を歩いてみたい!」などイロイロでした。

美幸はそれに買い物が入るでしょう。

それやこれや本格的な海外旅行は初めての私たち夫婦の期待は膨らみ、成田から二人のワクワクをのせたJALは飛び立ちました。

約11時間のフライトで窓の外に広がる風景は赤い屋根の町並み、ミラノです。

「ついに来ました! あこがれのイタリア…」

時差ボケもなんのその、物見遊山は19世紀半ばにつくられた当時のショッピングモール「ガレリア」と隣接する世界最大のゴシック建築物「ミラノ大聖堂」で幕を開けました。

大聖堂は通称(ドォーモ)、KBCテレビの番組タイトルはこれから引用されています。全て石で出来たこれほど巨大な建造物は日本にはありません。ヨーロッパは石の文化、日本は木の文化を改めて実感です。

さらに大聖堂は着工から完成まで何と500年!このような根気も日本人には無いでしょう。

その後は「ベネチア」でゴンドラに乗り、花の都「フェレンツェ」でミケランジェロの壁画を眺め、「ローマ」でトレビの泉やコロッセオを見学するというお決まりのコースをたどりました。

その中で特に印象に残ったのは

ナポリから船で行くカプリ島、晴れた日にだけブルーに輝くという「青の洞窟」でした。

船が洞窟の中に入るとそこは神秘の世界、言葉では言い表せない幻想的な水面が妖しい光をはなっています。世界各国から集まった陽気な観光客も声なき声をあげるだけ…、私たち二人の心を忘れられない色で染めてくれました。

他にも「ジプシー」と現地で呼ばれるスリグループに出くわしたり、水(飲料水)の高さに驚いたり、ミラノ風カツレツに舌鼓を打ったりの一週間はまさにあっという間でした。

しかし、本当に印象に残ったのは

「イタリアの人たちが明るく陽気なこと」、ゴンドラの船頭さん?の歌声をはじめとしていつもどこかで誰かが笑顔で歌っている国民性、これらがとてもいい思い出を作ってくれたのです。

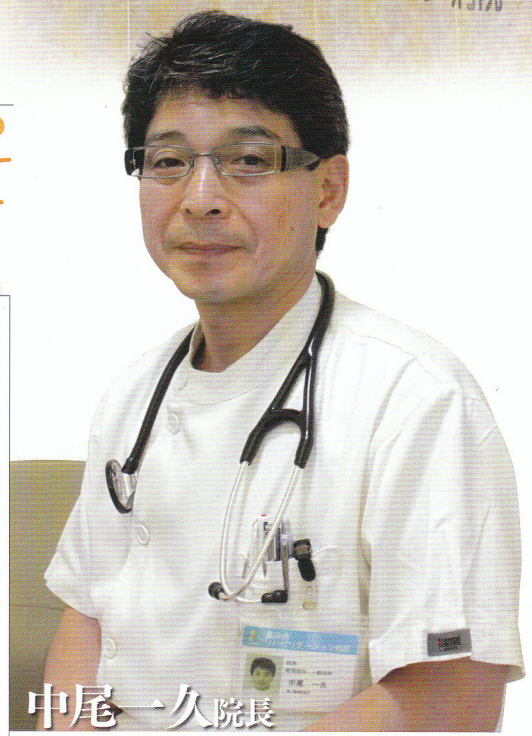
私たちの仕事も突き詰めれば患者さんが幸せな気持ちになるお手伝いです。

イタリアの人々の陽気さに学ぶ所があるように感じた旅でもありました。

これからも仕事がんばります!

ドクター・リレーコラム
おしえて先生!!

高良台リハビリテーション病院ってどんな病院？


中尾一久院長

私たちが日常何気なく使っている言葉の一つに「リハビリテーション」という医学用語があります。
しかしこの言葉の意味を詳しく説明できる人は意外と少ないのではないでしょうか？
そこで今回は高良台病院の院長である中尾一久先生に教えていただきましょう。
患者さんはもちろん、ご家族の方々もぜひお読み下さい。

（インタビュアー：有限会社アームSP　津崎謙太郎）

Q 早速ですがリハビリテーション（略してリハビリ）という言葉の本当の意味を教えてください？

A リハビリを一言でいうと、「体や心に障害のある人がそれを克服し、同年代の健常者とほとんど差がない生活をすることが出来るように回復させる」トレーニングや、その為の医療を受けることです。
この目的を達成する為には二つの方法があります。
一つが「リハビリテーション医療によって回復を図る」、つまり元気で長生きできる体にもどすということ、そして二つ目が「地域リハビリテーション」です。

Q リハビリテーション医療は何となくわかりますが、地域リハビリとは聞き慣れない言葉ですね…？

A 確かにあまり知られている言葉ではありません。
医療関係者の間でも最近使われ始めた言葉で、その意味は「高齢者を含む障害がある人とその家族が、長年住み慣れた地域で生き生きと生活できるようにする体制作り」のことで、これは医療関係だけではなく、行政や地域に住む人々も参加する総合的なネットワークを作り上げないと実現しません。
しかも高齢化社会が目前に迫った今だからこそ、早急に取組まなければならない大きな課題になっています。

Q なるほどリハビリと一口でいっても患者さんや家族の問題にとどまらないということですね。話は変わりますが、「リハビリテーション病院」というネーミングはちょっと珍しいですね。ほとんど聞いたことがありません…。どうしてリハビリ専門の病院を立ち上げたのでしょう？

A 私たちの久留米市は人口に対して医療機関の数が全国的に見ても1～2を争う程の医療過密地区です。
しかし、医療機関だらけの久留米市でもその多くが急性期病院（目の前の病気やけがを直すのが目的の病院）で、長期の治療やリハビリまで行

回復期リハビリテーション病棟

たくさんの患者さんが頑張るリハビリルーム

う所はあまりありませんでした。私は病気になった方が回復するまで、なるべく自宅に近いところで安心して治療に専念できる「地域完結型」の町が医療の理想としていますので、「よし！久留米につくろう！」（笑）と思い、亜急性期病院（リハビリのための専門病院）を始めました。

Q 理想に燃えた訳ですね？

A かっこ良くいえばそうです（笑）。

例えば高齢化が進むにつれ脳梗塞で倒れる方が急増しています。

しかし急性期病院では脳梗塞そのものの治療と、ある程度（最小限）のリハビリは行いますが自宅で大きな支障なく生活できるレベルまでの長期にわたるリハビリは行っていません。退院せざるをえないのです。

これでは共働きの家庭や高齢の方による患者さんの介護は難しいのが実情です。

こうして医療難民と呼ばれる高齢者が生まれ社会問題になっています。だから「高良台リハビリテーション病院」は出来るだけリハビリによって日常生活に支障がない程度に回復し、自宅で生活できるよう応援する病院でありたいと考えています。

Q その為に普通の病院（急性期病院）と違う設備が備えられていたり、特殊なスタッフの方がいらっしゃいますか？

A もちろん他の病院とは大きく違います。私たちの病院は、脳血管疾患や下半身の骨折などの患者さんが、寝たきりにならないようにサポートし自宅復帰することを目標にしたプログラムが組まれています。

だから病棟は「回復期リハビリテーション病棟」と呼んでいて、リハビリの為の入院施設で100床あります。

スタッフも、急性期病院は医師と看護師がほとんどですが、ここは理学療法士（自分で寝返りを打つ、起きる、歩くなどの基礎的なリハビリを専門にする）、作業療法士（トイレや食事、洋服を着るなどの日常生活に欠かせない動作を専門にする）、言語聴覚士（喋る、聞くなどの分野を受け持つ）、介護福祉士、社会福祉士等が居て共同で復帰の為のお手伝いをしています。

もちろんリハビリの為の設備（リハビリルーム）もこの病院の大きな特徴です。

Q このような病院を運営してゆく上で特に気を配っている点は…？

A リハビリの為の病院なので患者さんとのおつきあいがどうしても長くなります。

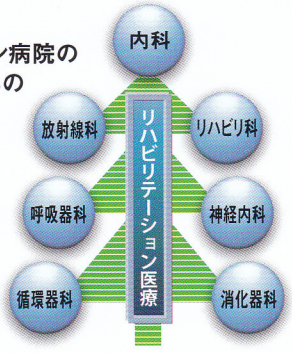
すると人と人の関係、つまりコミュニケーションがとても重要です。リハビリ中の患者さんに最も大切なのは「自分は必ず良くなる」という気持ちの持続です。

これをサポートする意味でもスタッフは常に明るく笑顔いっぱいで応援する姿勢が求められます。

「うちの病院は合格しますでしょうか…？」（笑）

高良台リハビリテーション病院の特徴を図にしたもの

急性期病院は患者さんの命を救う医療が柱になり、専門の科がそれを取り巻いているが、高良台リハビリテーション病院は命の心配は無いが日常生活に支障がある患者さんが復帰を目指す、リハビリ医療が柱になっている。



高良台リハビリテーション病院の医療体制を図にしたもの

患者さんを取り巻く専門スタッフがそれぞれの立場から強力に家庭復帰をサポートします。

インタビューを終えて

先生にお話を伺う中で特に印象に残った言葉の一つに「リハビリマインド」というのがありました。
マインドとは、「決意・やる気」という意味にとっていいでしょう。
つまり、リハビリに励む患者さんはもちろん、お手伝いする病院スタッフにもこのマインドがとても大切だとおっしゃるのです。
高齢者医療は様々な問題に直面しています。
このような時代の中で私たちが元気で楽しく人生を全うするには、リハビリに励む患者さん、ご家族、そしてサポートするスタッフの「マインド」がいかに大切かを実感するインタビューでした。

問題が発生するとすぐに行われるミーティング

KORADAI WIND CLUB

スタッフ・インタビュー❶

高良台スタッフに一問・一答

このコーナーは、スタッフのことを少しでも知っていただき仲良くなって欲しいとの願いを込めてスタートしました。
「貴方のリハビリのお手伝いをしているスタッフはこんな生活を送っています」

作業療法士
境 千春
Chiharu Sakai

「作業療法士の境 千春(さかい ちはる)でーす!よろしくお願いしまーす」
と元気な声で話し始めた千春さんは入職(入社)4年目、キャリアもほどほどに積み中堅と呼ばれる日も近づいている。

彼女に「なぜこの仕事を選んだのか?」と問いかけると、「私ほんとは看護師になりたかったんです、でも学生時代研修で病院に行って血を見て失神しちゃいました。(笑)、『これじゃ絶対に無理だ…』とあきらめていたら担任の先生から『作業療法士という仕事があるよ』と教えられてとびつきました」

ハキハキと歯切れがいい語り口で受け答えしてくれる千春さんの生まれは大牟田市、毎日車で1時間かけて通っている。

趣味は?の質問には「釣りが好きではまってます!」、待ってましたとばかりに笑顔いっぱいの答え、「職場の人たちとよく行くんです、先日は舟で瀬渡ししてもらってアジやキスをいっぱい釣り上げました」、なかなか本格派である。

毎日の仕事で一番嬉しいのは患者さんが少しずつ回復する姿を見ること、「そのときは一緒になって喜んでしまいます」と優等生のような返事。

そこでちょっと意地悪く「仕事で大変だと思う時は?」の質問をかぶせると、「明らかに障害があるのに『俺はどこも悪くない!いらん世話はせんでくれ!』等とおっしゃる頑固な人にあたったときです」と顔をしかめた。

彼女の将来の夢は「今の所見つかりません、毎日の仕事で精一杯です!」(笑顔)

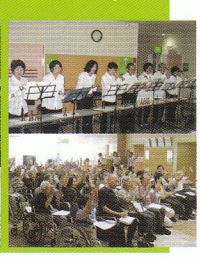
休みの日は愛犬『てつじ』(チワワ)の世話とウインドウショッピング、そして大好きなステーキを食べるのが楽しみだそうだ。

最後に読者の皆さんへメッセージを…と言うと「こんな私ですが宜しくお願いしまーす!」とこれ又元気な声が返ってきた。

COMMUNICATION BOX

ハンドベルコンサート

一階ロビーで爽やかなベルの響き
ことのほか暑かった8月28日、久留米歌謡学院の皆さんがハンドベルの演奏会を開催してくださいました。
曲目は童謡や懐メロで参加した方々どなたでもご存じの曲ばかり、暑さを忘れて聞き入りました。



患者さんの声

1年程前腰が痛いと思ったのが闘病生活の始まりでした。中尾先生の紹介で久留米大学病院へ行った所「背骨の圧迫骨折」と言われました。すぐに手術、3週間後高良台リハビリテーション病院へ転院しリハビリの日々を送りました。

今は一応退院して自宅で自主トレしながら週に一回通院しています。

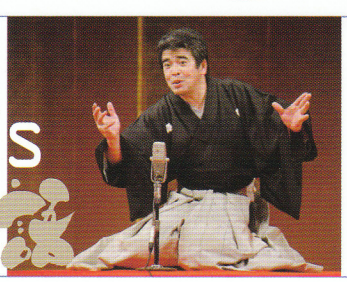
入院中はリハビリの先生が厳しかったのと、それ以外のスタッフの皆さんが明るくて優しかったのが印象に残っています。

今の夢は、早く一人で家事が出来るようになることです。

それに孫の顔を早くみたいですね(笑)

筑後市
城崎美保さん

Hot News ホットニュース



平成22年10月17日開催

恒例!「第7回 高良台病院祭」のお知らせ

毎回ご好評を頂いていますお祭りが今年も開催されます。
メインゲストは落語家の「三遊亭歌之介師匠」、大いに笑って下さい。
他にも「太鼓」あり、「博多にわか」、「歌や踊りや演奏会」、さらに「バルーンアート」や「抽選会」と盛りだくさん!美味しい出店も待ってます。皆さんふるってご参加下さい。
詳しくは、**「病院祭実行委員会・0942-51-3838」**までお問い合わせ下さい。

医療法人社団 久英会　高良台リハビリテーション病院
〒830-0054 福岡県久留米市藤光町 956-2　TEL 0942-51-3838 FAX 0942-51-3535
http://www.kyueikai.jp　E-mail kouradai-web@kyueikai.jp

KOURADAI